巻頭言

技術の品格

編集理事　篠原弘道

先ごろ，「国家の品格」が話題を集めました．この本に触発され，「技術の品格」について考えました．ロジャー・ペンローズは著書「皇帝の新しい心」の中で，物理理論を“最高”，“有用”，“暫定”にカテゴリー分けしています．ペンローズは“最高”に分類される条件として，適用範囲と正確さが驚異的であること，数学的に優美であることを要求しています．品格とは異なりますが，物理理論の中に“有用”を超えた存在を認めています．このように「科学の品格」を論じることはできると思います．技術についてはどうでしょう．「技術は有用であればよい．技術は利用されることを前提にしているので，“利用法”の品格こそ問われるべきで，技術そのものの品格を問う必要はない」という考えもあるでしょう．しかし，品格を備えた科学があるとすれば，技術も品格を具備できると考えるのは，技術に携わる人間として自然な欲求だと思います．

辞書によれば，“品格”に対応する英語は，elegant（優美，高雅，精密で簡潔）や dignity（尊厳，気高さ）とあります．これらの言葉から，「科学の品格」を私なりに定義すれば，「普遍性，革新性，簡潔性，完備性，美しさ，影響範囲が広い，などの要素を具備していること」となります．「科学の品格」とは，これら要素の中の一つを備えていればよいのではなく，これら要素の多くを備えていることだと思います．電磁理論，古典力学など，これらの要素を多く備えている科学は枚挙にいとまがありません．また，これら要素を熟視すると，これらは科学の目標そのものといっても過言ではないことに気づきます．したがって，科学の目標は，科学的品格の実現と換言できるのではないでしょうか．科学を追究する者は無意識のうちにその品格を追求しているのだと思います．

では「技術の品格」とは何でしょう．技術の目的は，生産性・利便性・安全性の向上というように社会生活と密接に関係しています．有用性は技術にとって不可欠な条件です．しかし，どれほど有用度が高くとも，有用性だけでは品格具備の条件にならないと思います．品格の決定要素を明示できませんが，量的効用を超えた質的変化，革新性，時代の超越性，グローバル性，応用・影響範囲の広さ，簡潔性，資源の効率利用，環境や人に対する優しさなどは技術の品格を高める要素の一部だと思います．

多くの先達が品格を備えた技術を生み出しました．私が幼いころ「末は博士か大臣か」という言葉を耳にしました．科学・技術が畏敬の念を持って見られていたことの表れだと思います．最近，技術に対する畏敬の念が薄れているように感じます．携帯電話のような先端技術の集合体が一般化したことがその一因でしょう．また，技術開発の現場では市場競争力の重要度が一層高まり，効用評価が偏重されているという不安を覚えることがあります．すなわち，開発スピード，経済性が重視される余り，品格に優れた技術の創出を促す風土（余裕・機会）が損なわれ始めていると危惧しています．品格を目的化すべきと提案しているのではありません．品格は結果として備わるものですし，すべての技術が品格を備えるべきだとも思いません．しかし，「技術の品格」を通して，技術が正当な評価・ふさわしい尊敬を受け，ひいては技術者の価値向上，グローバル市場での競争力向上に結び付くものと確信しています．「技術の品格」の本質にたどり着くことはいまだできませんが，―Technology of dignity―技術を品格という観点からもとらえ，次代の技術者や海外から尊敬される，品格を備えた技術が一つでも多く生まれるよう努力していくことが大切だと考えています．